

二〇二二年九月二四日

風起こす貨物列車や猫じやらし

豊実

黄落のうち敷く庭に力石

素秀

ジーンズに盗人はぎのすそ模様

たか子

満月に濃き影なせる家並みかな

あひる

月光に藍深めをり四囲の山

はく子

二〇二二年九月二三日

墓参り手桶持つ子ら遅しく

そうけい

十六夜や一日子守の腰伸ばし

なつき

干されたる漁網の臭ふ残暑かな

ぼんこ

二〇二二年九月二二日

秋雨や龍笛ひびく祈禱殿

なつき

雲抜けて漆黒深き望の月

豊実

三輪山も二上も見ゆ望の月

明日香

秋灯し鱗の光る白蛇図

なつき

月の出を畑道で待つ人の列

そうけい

二〇二二年九月二二日

焼印の薄れし鎌や豊の秋

みきお

灯親し天声人語書き写す

やよい

秋風や天を掃きをる杉木立

隆松

二〇二二年九月二〇日

補聴器に途切れ途切れの昼の虫

みきお

敬老日息災といふ感謝あり

たか子

孫が描く爺婆若し敬老日

もとこ

臥す父へカーテン開くる月今宵

なつき

山村に薪割る音や冬隣

みきお

真青なる空どこまでも鱗雲

せいじ

二〇二二年九月一九日

虫の声聞き分けしつつ長湯かな

素秀

千枚田赤く綴るは曼珠沙華

智恵子

巻貝に耳当てて聞く秋の声

宏虎

月孤高台風一過の中天に

はく子

身に入むや手向け花ある従軍碑

凡士

二〇二二年九月一八日

天高し埋め戻されし出土跡

せいじ

朝芒触るる手甲に玉雫

隆松

バケツからちろ飛び出す拭き掃除

やよい

魁の暗雲迅し台風来

むべ

薄暮なるパステルカラー秋の雲

たか子

窯元に並ぶ大甕虫の声

素秀

神域の籬をなせる曼珠沙華

ぼんこ

毎日句会みのる選・二〇二二年九月二六日